

平成二十五年 小論文試験

次の文章を読み、問いに答えなさい。

受験番号
氏名

日本を訪れる外国人は、宗教的事物からもっとも強烈な印象を受ける。冬の霧に包まれた京都の東寺の塔、瀬戸内海に聳え立つ宮島の大鳥居、原子爆弾の記念として長崎に今も残されている浦上の天主堂の①ハイキヨ——みな忘れることはできない光景である。ごく②「エイボ」な土地柄の村々でも、仏寺はその堂々たる③観を誇り、村で最も景色のよい地点は④に占められていることが多い。

外国人にとって、最初はなかなか仏寺と神社の区別がつかず、まして仏教の数多い宗派の相違など見当もつかないのは当然だろう。だが、彼もやがていくつかの違いに気づくようになる。例えば、神社はふつう簡素な構造で、彫像のたぐいはなく、それに比べると、より堂々とした外見の仏寺には、多数の仏像や仏画が集められ、堂を満たしていることが多い。神官は淡く柔らかな色彩の衣をまとっているが、仏僧たちの衣装は黒である。

外国人がこうした相違を知って興味にかられ、日本の仏教徒と神道信者の数を訊ねたら、たぶん、⑤ほとんどすべての日本人は同時に仏教徒でも神道信者でもあるといわれて、面食らってしまうだろう。さらに、日本人は何を⑥至高の存在として礼拝するのかと訊ねたならば、彼らの多種多様な返答にますます当惑してしまうことだろう。日本では、宗教は複雑な事がらであり、恐らく、世界でもこれほど複雑な国は少ないのではなからうか。だが、少なくとも、日本人の生活に影響を与えている信仰が四つある。

土着宗教であるシントーは「神々の道」を意味する。鳥、獣、木、植物、山、そして、悪霊までも含めて、⑦八百万の神々が⑧崇められる。神道の活動は神社周辺に集中しているが、伝統的な家には一軒一軒に「神棚」があって、特に元旦には供物が捧げられる。神道にはそれ自体の論理的教えはなく、日本人が従うべきものは何もない。神道の聖典である⑨は宗教的⑩クンカイを含まず、神々と彼らの子孫、つまり、歴代天皇についての伝説がその内容である。

自然崇拜、先祖崇拜、英雄崇拜に由来する典礼の混然とした集合物として始まった神道に比べて、仏教は六世紀の日本に伝えられたとき、すでに高度に発達した宗教だった。その起源は、かつて実在した仏陀にまでさかのぼる。紀元前五世紀に北インドに生まれ、広くその教えを説いた人物である。その後、仏教が日本に伝えられるまでに、膨大な神学的著作がインドと中国の学者たちによって書かれ、少なくともキリスト教諸派に⑪ヒツテキする多様な多くの宗派が存在していた。今日の日本ではほぼ六つの宗派が区別できる。

もうひとつの日本の宗教である⑫は、紀元前五一年から四七九年まで生きた中国の聖者、孔子の教えに基づいている。厳密にいえば、⑬は宗教ではなく、来世については何ひとつ語らないが、人々の孔子に対する⑭尊崇の心は神に対するものと同ど違わなかった。⑮は日本人の生活の論理的基盤である。

キリスト教は十六世紀にはじめて日本に伝えられた。長い迫害の年月を耐え忍んだ後、十九世紀にキリスト教は日本の重要な宗教のひとつとなった。今日の日本には、数十万のキリスト教徒がいる。

この四つの信仰は、これまでそれぞれ日本社会に⑯コンセキを残してきた。今日の日本の深層部にわけ入りたいと願う者は、⑰しばしば第三者を当惑させる宗教の問題にしばしば時をさかなければならない。

ドナルド・キーン著 足立康訳『果てしなく美しい日本』(抄)

問一 本文中の①から⑤の語句を漢字で書きなさい。

問二 本文中の⑥から⑩の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問三 ⑪にあてはまる言葉として最も適切なものを一つ選び、その数字を書きなさい。

- ①神社 ②寺院 ③教会 ④学校 ⑤役場

問四 傍線部④「ほとんどすべての日本人は同時に仏教徒でも神道信者でもあるといわれて、面食らってしまうだろう」で、外国人はなぜ「面食らってしまう」のか、30字以内で説明しなさい。

問五 ⑫にあてはまる言葉として最も適切なものを一つ選び、その数字を書きなさい。

- ①万葉集 ②古事記 ③古今和歌集 ④徒然草 ⑤歎異抄

問六 ⑬にあてはまる言葉として最も適切な単語を漢字で書きなさい。

問七 傍線部⑯「しばしば第三者を当惑させる宗教の問題にしばしば時をさかなければならない」と著者は述べている。なぜ著者はそう思うのか、その理由を350字以上400字以内でまとめなさい。



平成二十五年度 小論文試験

次の文章を読み、問いに答えなさい。

紀元前三九〇年のケルト族来襲から、ローマ人はいくつかのことを学んだ。その一つは、国内二分裂の愚かさである。貴族派と平民派に二分裂していたからこそ、①パンゾクにすぎないケルト人によいようにされたのであった。

だが、これも、紀元前三六七七年の「リキニウス法」によって、解消することに成功した。一見するだけならば平民への大幅な②ジョウホに見るこの政治改革も、国政の要職すべてを、前三〇〇年には祭職さえも、全面的に平民出身者に開放したことによって、貴族と平民の対立関係を、貴族が平民を③ナイホウする関係に変えたのである。結果は、すぐにあらわれた。ローマは、ローマのもつエネルギーのすべてを投入できる、つまり国力を最大限に活用できる、体制を確立できたことになった。

ローマが強大になった要因の第一を、このローマ独自の統治システムの確立にあつたと考えるギリシア人ポリビウスは、それゆえに前三九〇年のケルト族来襲を、「このときを境にローマの④コウリユウははじまった」と書いたのである。

だが、これは、根本的なことであつても内政に属する改革である。外政が、まだ残っている。そして、この面でもローマ人は、ケルト人に敗北したことから学んだ⑤教訓の現実化を忘れなかった。

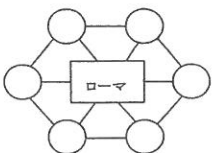
中略

紀元前四世紀半ばのローマ人にとつての当面の課題とは、二度と再び同盟国離反の⑥ナダレ現象を起こしてはならない、という一事であつた。

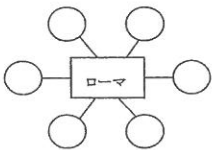
同盟とは、共通の目的達成のために同一行動をする連合体のことである。加盟国はいずれも、主導国ローマをふくめて、寄り合い所帯をつくっている。だが、このような単なる集合体では、加盟国とローマの関係は、その国と別の加盟国との関係とたいした差はない。だからこそローマが強いときはローマと結ぶが、ローマが弱体化するやいなや、たちまち離反するという現象が起こる。

それで、前四世紀半ば以降のローマ人は、他国との同盟関係を、その国とローマの間にのみ限る形態に改めた。凶解を試みれば、次のようになるかと思う。

ラテン同盟



ローマ連合



「ローマ連合」での同盟協定は、ローマとの間だけ結ばれ、同盟国間で結ぶことは許されなかった。加盟国間で問題が生じた場合でも、当事者同士では解決を許されず、ローマの仲介によって解決するとも決められた。

この形態を強制できたのは、ローマは勝者で、それ以外の国々は敗者であつたからである。「ローマ連合」が、敗者に強いられたい非平等的な同盟関係であることは確かだ。しかし、敗者には財産没収と奴隷化が常態であつた時代、ローマ人の考えたこの方式は、異例に寛容であつたと言つても言い過ぎではない。寛容であらうとしてそうなつたのではなく、ブルタルコス言を引くまでもなく、ローマ人は自分たちの性向に忠実に⑦フルマツただけなのだ。

そして、「ラテン同盟」では、同盟の構成分子はローマとその他の加盟国という二種類しか存在しなかったが、「ローマ連合」では、構成国は次の五種類に分けられていたのであつた。

中略

「ローマ連合」の中でこの第五種に属する国々は、ナポリを筆頭として、前四世紀後半にローマの勢力圏に次々と組み入れられてくる、南イタリアのギリシア植民都市が多かつた。

これが、前四世紀半ばに確立した、「ローマ連合」の実体である。ローマは、敗者を隷属化するよりも、敗者を「共同経営者」にするという、当時では他国に例を見ない政略を選択したのである。そして、これこそ、後世に有名になる、⑧「分割し、支配せよ」の考え方の誕生でもあつた。

なぜなら、ローマ以外の四種の国々は、ローマを中心にして外に向つて次々と、「ムニキピア」「コロニア」「ソーチ」と、樹木の年輪のように分けられていたわけではなかったからである。この四種類の「同盟国」は、互いにまざりあう形で混在しているのが実情だつた。ローマが、わざとそうしたのである。同盟国間で結束し、ローマに対して共同戦線を張ることがむずかしくなるようにと考へての混在だつた。とくに、戦略要所に点在する植民地が、同盟国間の共同行動を分断する役目を果たした。

塩野七生著

『ローマ人の物語Ⅰ ローマは一日にして成らず』(抄)

受験番号
氏名



平成二十五年 小論文試験

問一 本文中の①から⑦の語句を漢字で書きなさい。

問二 次の④から⑥に適切な言葉を入れなさい。

第一種は、連合の主柱となる () ④ () である。

第二種は、旧ラテン同盟の加盟国であった国々。

第三種は、「ムニキピア(出題者訳 地方自治体)」と呼ばれた国々。

第四種は、日本語では () ⑤ () と訳されている「コロニア」。

第五種は、「ソーチ(出題者訳 同盟国)」と呼ばれる国々。このままでイタリア語になっているソーチとは、現代では () ⑥ () 経営者を意味する。

問三 傍線部④「教訓の現実化」とは、何か。次の中から選びなさい。

(a) 徹底的に準備をして備えること。

(b) 困った時こそ年長者の意見を聞くこと。

(c) 同じ失敗をしない工夫をこらすこと。

(d) 有益で事実に基づく教育的情報を集めること。

(e) 過去の教訓と現実に起きている事の違いを認識すること。

問四 傍線部⑧「政治建築のケツサク」とは何を指すか。20字以内で書きなさい。

問五 傍線部⑨「ローマ人は自分たちの性向に忠実にフルマッタ」とはどのような性向を指すか、30字以内で書きなさい。

問六 傍線部⑩「分割し、支配せよ」の考え方とは、どのような考えか。なぜ「わざとそうした」のかを含めて、著者の考えを350字以上400字以内でまとめなさい。

